

2023年3月期決算及び今後の事業戦略に関する説明資料

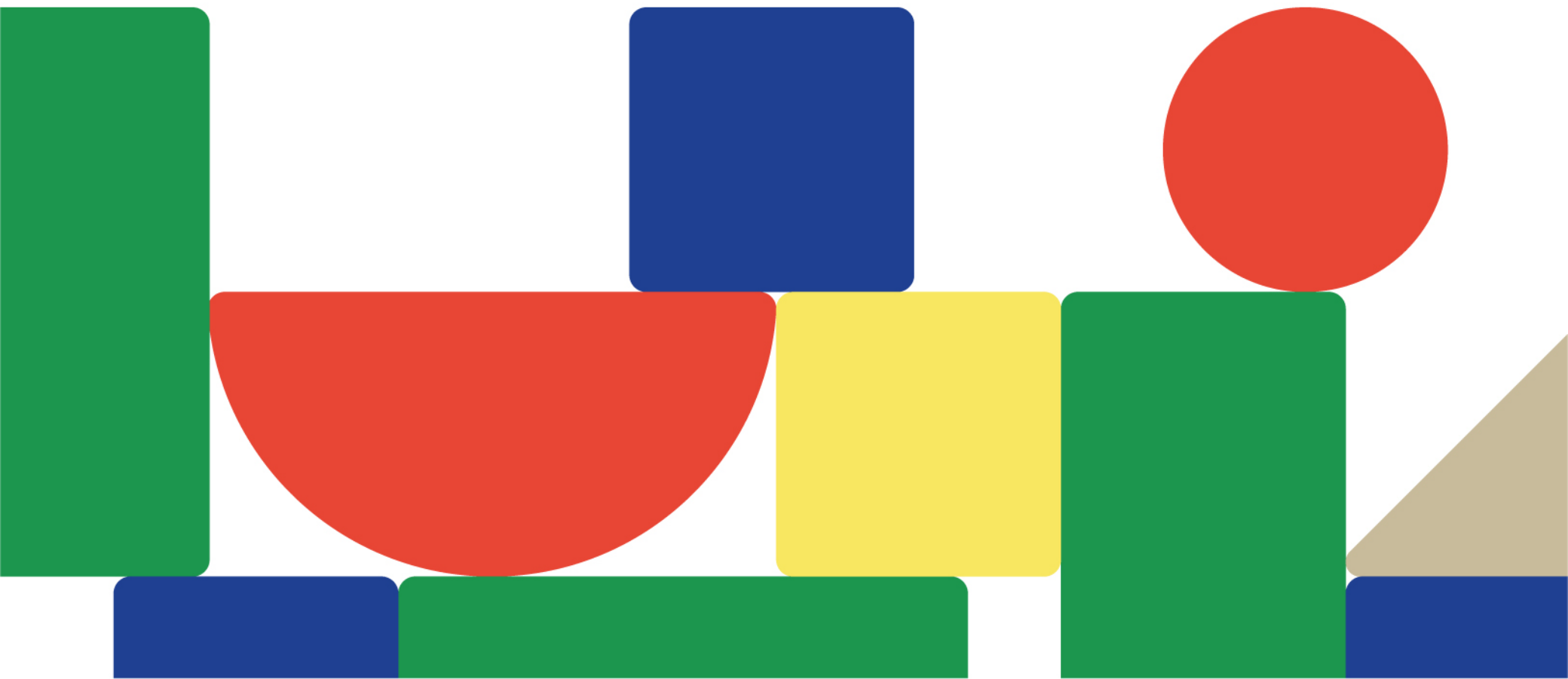
2023年5月29日

株式会社Kids Smile Holdings

証券コード:7084

教育を通じて社会に貢献する

KIDS SMILE HOLDINGS



会社概要	P2
監査等委員会設置会社への移行	P3
事業別情報について	P4
23年3月期決算概要	P5
今後の事業戦略について	P17
参考資料	P23

社名	株式会社 Kids Smile Holdings
設立	2018年4月2日
所在地	東京都品川区西五反田1-3-8
資本金	600,852千円（2023年3月末現在）
連結子会社	株式会社Kids Smile Project（100%子会社）
当社グループの 主な事業内容	認可保育所の運営 認可外保育施設・幼児教室・学童施設 スイミングスクールの運営 ※東京を中心に80施設運営（2023年4月現在） 幼児教育教材開発・販売等
上場市場	東京証券取引所グロース（証券コード：7084）
従業員数	連結：1,544名（2023年3月末現在） ※パート・契約社員含む



代表取締役社長 中西正文

- 1995年 早稲田大学法学部卒業
株式会社博報堂入社
- 2008年 株式会社Kids Smile Project 設立
代表取締役社長就任（現任）
- 2018年 株式会社Kids Smile Holdings 設立
代表取締役社長就任（現任）
- 2022年 株式会社伸芽会
取締役就任（現任）

監査等委員会設置会社への移行

当社は、2023年6月25日に開催予定の第5回定時株主総会における定款変更等を条件として監査等委員会設置会社へ移行いたします。

監査役会設置会社



6月25日

監査等委員会設置会社

【目的】

- ▶ 取締役である監査等委員が取締役会で議決権を行使することを通じて監査・監督機能を強化する。
- ▶ 取締役会から取締役への権限委譲による意思決定と業務執行の迅速化を図ることにより更なるコーポレート・ガバナンスの充実と企業価値の向上を図る。

1. 取締役(監査等委員会である取締役を除く。)候補者

氏名	新職(予定)	現職
中西正文	代表取締役社長	代表取締役社長
土居垂由美	取締役副社長	取締役副社長
田上節朗	専務取締役	専務取締役
内田恭子	取締役 (非常勤、社外取締役)	(新任)

注)内田恭子氏は、元フジテレビアナウンサーです。
豊富な取材体験、女性や子供向けの社会活動への取り組みから、
当社の事業に有益なアドバイスを期待しております。

2. 監査等委員である取締役候補者

氏名	新職(予定)	現職
徳光悠太	取締役監査等委員 (非常勤、社外取締役)	取締役 (非常勤、社外取締役)
神成尚史	取締役監査等委員 (非常勤、社外取締役)	取締役 (非常勤、社外取締役)
波田野馨子	取締役監査等委員 (非常勤、社外取締役)	(新任)

注)波田野馨子氏は、弁護士であり、複数の企業の常勤社外監査役
や社外取締役の経験を有しております。それらの経験や見識を
通じて当社のガバナンス向上に期待しております。

当社グループの成長戦略、計画および実績について、より理解が深まるように事業区分別の情報でご説明します。

(注) 当該資料における事業別情報は、所謂「セグメント情報等の開示に関する会計基準」に準拠したのではなく、当社経営管理上における事業区分とデータとなります。

【補助金に頼らない事業】

■プレミアム教育サービス事業

上質な教育サービスを提供する事で高い収益力を生み出す民間事業

<事業内容>

- ・プレミアム教育施設の運営
ハイエンド向けプレスクール一体型保育所
ハイエンド向け学童施設、幼児教室、
グローバルスクール、スイミングスクール、
運動/野外体験教室 等
- ・教育プログラムの開発、販売



施設数:10/在籍児童数:1,156人※

【補助金を中心とした事業】

■認可保育所事業

社会インフラとしての役割を担い国や自治体からの補助金を中心に運営する安定した事業

<事業内容>

- ・認可保育所の運営
東京都・神奈川県・愛知県に展開



施設数:70/在籍児童数:3,900人※

2023年3月期 決算概要のご説明

2023年3月期 決算ハイライト

KIDS SMILE HOLDINGS

【売上高】

118.6億円 (前期比+11.3%)

認可保育所事業 **103.6**億円
(前期比+7.7%)

プレミアム教育サービス事業 **14.9**億円
(前期比+45.1%)

【営業利益】

▲0.3億円 (対前期 +1.8億円)

認可保育所事業 **6.3**億円
(対前期 +1.4億円)

プレミアム教育サービス事業 **0.8**億円
(対前期 +1.1億円)

(管理部門 **▲7.5**億円)

【EBITDA】

8.2億円 対前期 +2.0億円
(前期比+32.6%)

【運営施設数】(2023年3月末時点)

78施設 (対前期 +5施設)

認可保育所事業 69施設 (対前期+3施設)

プレミアム教育サービス事業 9施設 (対前期+2施設)

【在籍児童数】(2023年3月末時点)

4,981人 (前期比+15.0%)

認可保育所事業 **3,888**人
(前期比+8.1%)

プレミアム教育サービス事業 **1,093**人
(前期比+48.9%)

<認可保育所事業> 在籍園児数の増加に伴い売上高、営業利益ともに着実に伸長

<プレミアム教育サービス事業> 大型新規施設(キッズガーデン南青山)、南青山スイミングスクールで順調に契約者数が増加。売上高、営業利益ともに大幅伸長

2023年3月期 通期業績

KIDS SMILE HOLDINGS

前期より施設数・児童数が増加したことに伴い、売上高、営業利益ともに伸長
 業績予想では、新型コロナウイルスの影響を一定程度見込んでいたが、想定より影響も少なく、認可保育所事業、プレミアム教育サービス事業ともに、期中入園が順調に推移して、予想を上回る着地



(単位:百万円)

	事業別	2022年3月期	2023年3月期		対前期	主な増減要因
		通期業績	当初予想	通期業績	増減額	
売上高	合計	10,659	11,700	11,860	1,201	新規5施設開設
	認可保育所事業	9,628	—	10,365	737	新規3施設開設 既存施設の在籍児童の増加
	プレミアム教育サービス事業	1,030	—	1,495	464	新規2施設開設
	内 既存施設 ※1	920	—	893	▲26	キッズガーデン南青山への転園等
	内 新規施設及び事業開発部門 ※2	110	—	601	491	キッズガーデン南青山における 大幅な児童数の増加
営業利益	合計	▲214	▲110	▲31	183	施設数、児童数の増加等により収益力が向上
	認可保育所事業	489	—	638	149	在籍児童数の増加による収益力の向上
	プレミアム教育サービス事業	▲36	—	83	119	
	内 既存施設 ※1	233	—	197	▲36	育成配属による人件費増加等
	内 新規施設及び事業開発部門 ※2	▲270	—	▲114	156	キッズガーデン南青山における大幅な 収益力の向上
	(管理部門)	▲667	—	▲753	▲86	人件費等の増加
EBITDA	合計	624	720	828	204	
経常利益	合計	1,147	260	378	▲769	認可保育所の開設補助金が影響 2022年3月期:9園 2023年3月期:3園
親会社株主に帰属する当期純利益	合計	686	160	188	▲498	

2023年3月期 新規開設園

2023年3月期においては、認可保育所を東京都内に3施設
プレミアム教育サービス事業は、アフタースクールを1施設、スイミングスクールを1施設、計5施設開設

認可保育所事業			
	開設日	所在地	園名
1	2022年4月	杉並区	キッズガーデン阿佐谷南
2	2022年4月	小金井市	キッズガーデン小金井中町
3	2022年7月	江戸川区	キッズガーデン南小岩

プレミアム教育サービス事業			
	開設日	所在地	施設名
1	2022年4月	港区	アフタースクール南青山小学部 
2	2022年4月	港区	南青山スイミングスクール 

・キッズガーデン南青山内の25m専用プールにて運営を開始
・北島康介氏が代表を務めるIMPRINTと業務提携



【集客力・サービスクオリティの向上】

少子化進行にも関わらず、期末充足率(0歳～2歳)は昨年より上昇(22年3月期:95.1%⇒23年3月期:96.1%)
全年齢の期末充足率も、昨年より2.6ポイント増加し、82.5%に上昇

- ・プレミアム教育サービス事業のノウハウ(教育プログラム、集客施策など)の活用
- ・リソー教育グループ並びに伸芽会との連携を強化

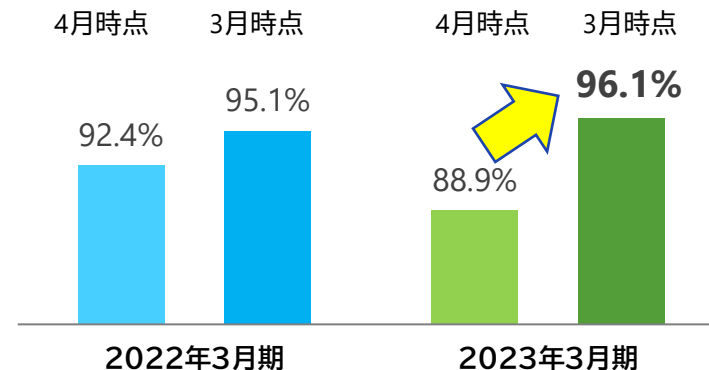
【開設計画】 3カ年合計で4施設(昨年5月27日発表 中期経営計画時点)を計画通り達成

2022年 4月 2施設／7月 1施設 計3施設開設
 2023年 4月 1開設

- ⇒・今後はサービスの向上を図り、保護者・園児が『選びたくなる保育園』づくりを継続
 ・充足率の更なる向上を図る



当社グループの認可保育所(0歳-2歳)の定員充足率※



【新規施設における売上高・営業利益が大幅伸長】

キッズガーデン南青山、南青山スイミングスクールともに順調に契約者が増加
→ プレミアム教育サービス事業における売上高、営業利益の大幅伸長に寄与



【開設計画】

開設計画: 3カ年合計で8施設程度(昨年5月27日発表中期経営計画時点)

2022年4月 2施設開設

2023年4月 1施設開設

→ 2024年3月期までは、計画通りに進捗

→ 2025年3月期以降の新規開設に向けた、物件開発に注力



【新サービスライン開発】

グローバルスクールモデルの開発

- ・新たなプレミアム教育サービスとしての展開モデル
- ・英語と日本語のバイリンガル教育
- ・全国展開を見据えたリーズナブルな価格設定

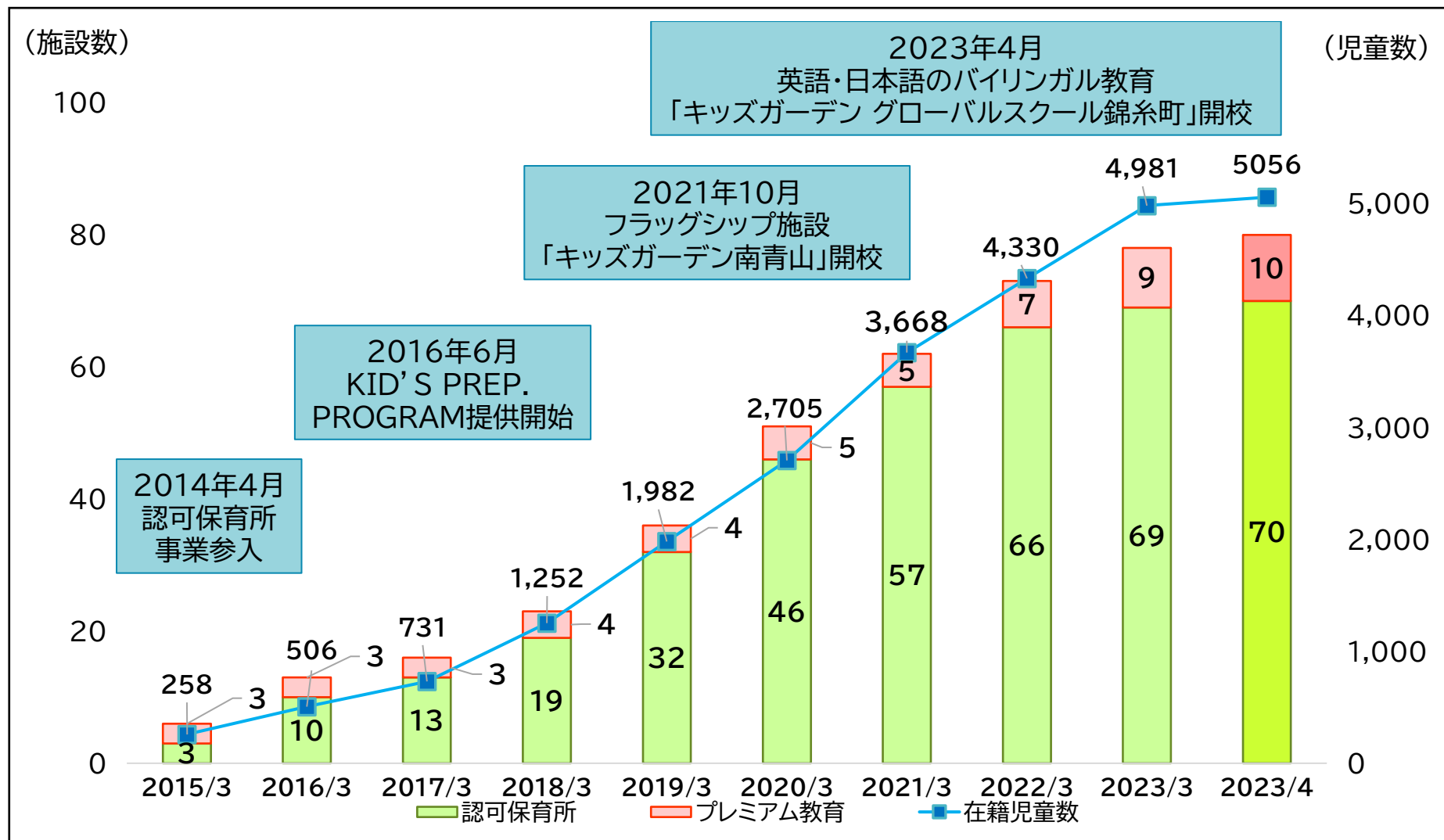
→ 2023年4月 1号施設「キッズガーデン グローバルスクール錦糸町」 開設

→ 今後の新規開設の軸として展開予定



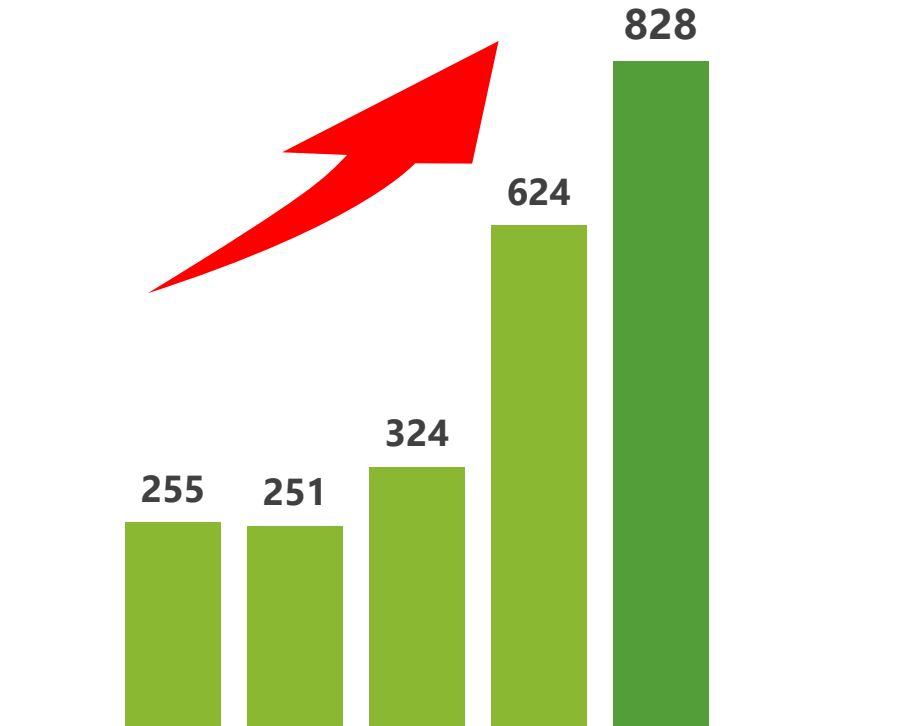
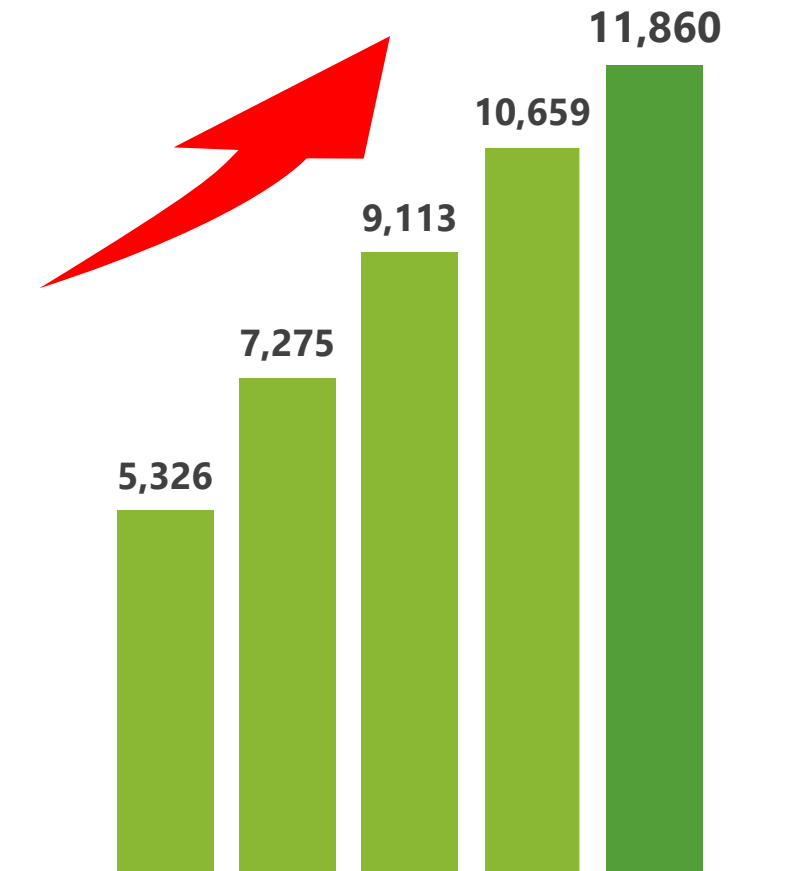
運営施設数及び在籍児童数の推移

運営施設数の増加に加え、既存施設の在籍児童数も増加



2023年3月期 売上高・EBITDA推移

施設数及び既存施設の児童数増加に伴い、売上高、EBITDAとも順調に増加



売上高

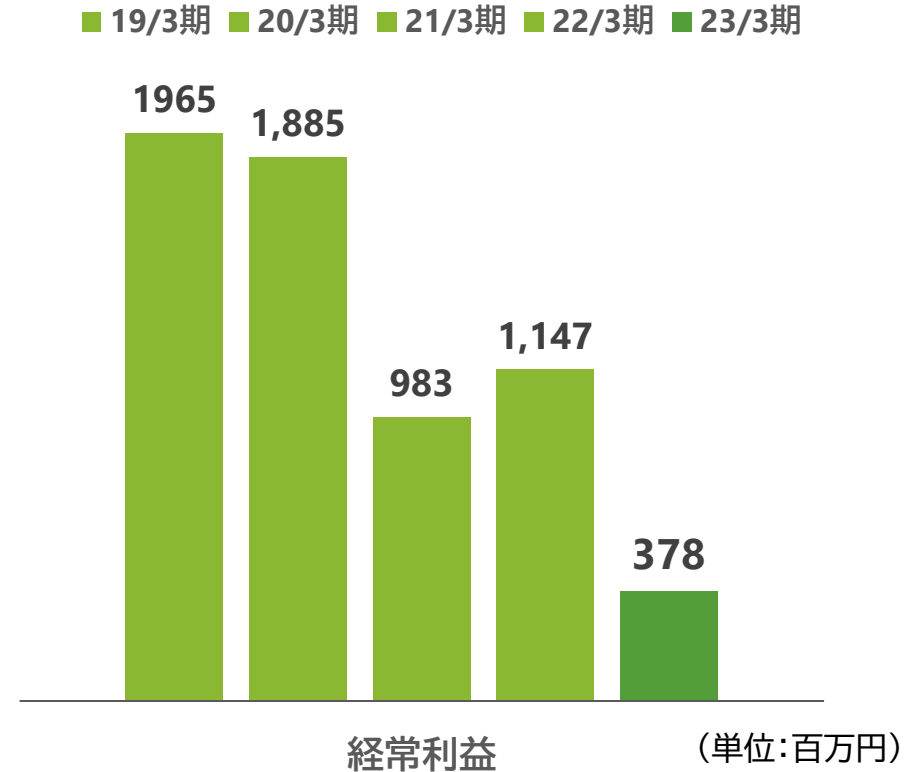
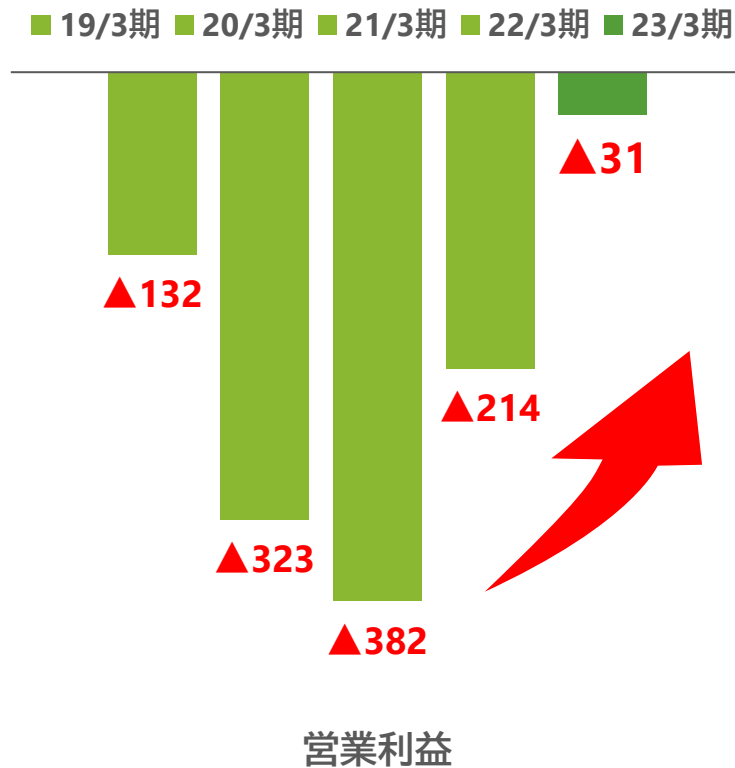
■ 19/3期 ■ 20/3期 ■ 21/3期 ■ 22/3期 ■ 23/3期

EBITDA (単位:百万円)

■ 19/3期 ■ 20/3期 ■ 21/3期 ■ 22/3期 ■ 23/3期

2023年3月期 営業利益・経常利益推移

既存施設の収益力の向上により、営業利益の赤字は縮小
 経常利益は、認可保育所の開設に伴う施設整備補助金による営業外収益により変動



【認可保育所開園数】

- 2019年3月期：13園
- 2020年3月期：14園
- 2021年3月期：11園 (内2園施設整備費補助金無し)
- 2022年3月期：9園
- 2023年3月期：3園

2023年3月期 PLサマリー

KIDS SMILE HOLDINGS

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期
売上高	10,659	11,860
売上原価	9,629	10,596
(減価償却費)	(825)	(850)
売上総利益	1,029	1,264
販売費及び一般管理費	1,244	1,295
(減価償却費)	(13)	(9)
営業損失	▲214	▲31
EBITDA	624	828
営業外損益	1,362	410
(補助金収入)	(1,418)	(419)
経常利益	1,147	378
親会社株主に帰属する 当期純利益	686	188

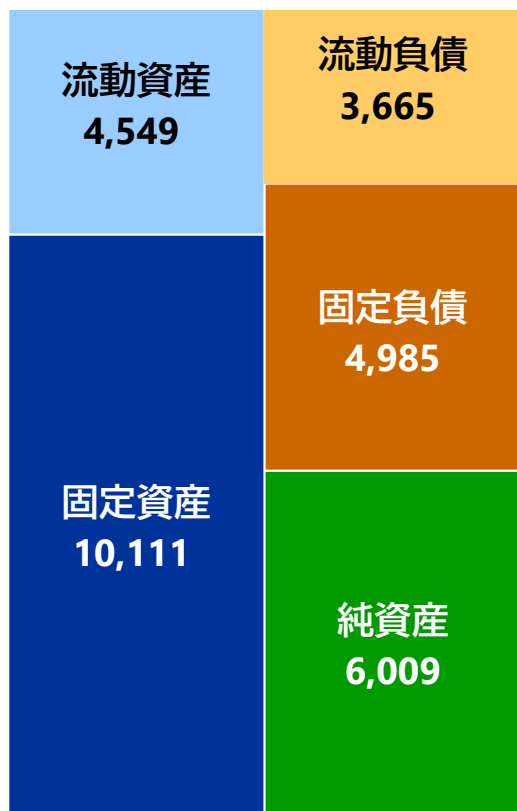
2023年3月期 BSサマリー

KIDS SMILE HOLDINGS

(単位:百万円)

2022年3月期末

総資産14,660百万円
自己資本比率:41.0%

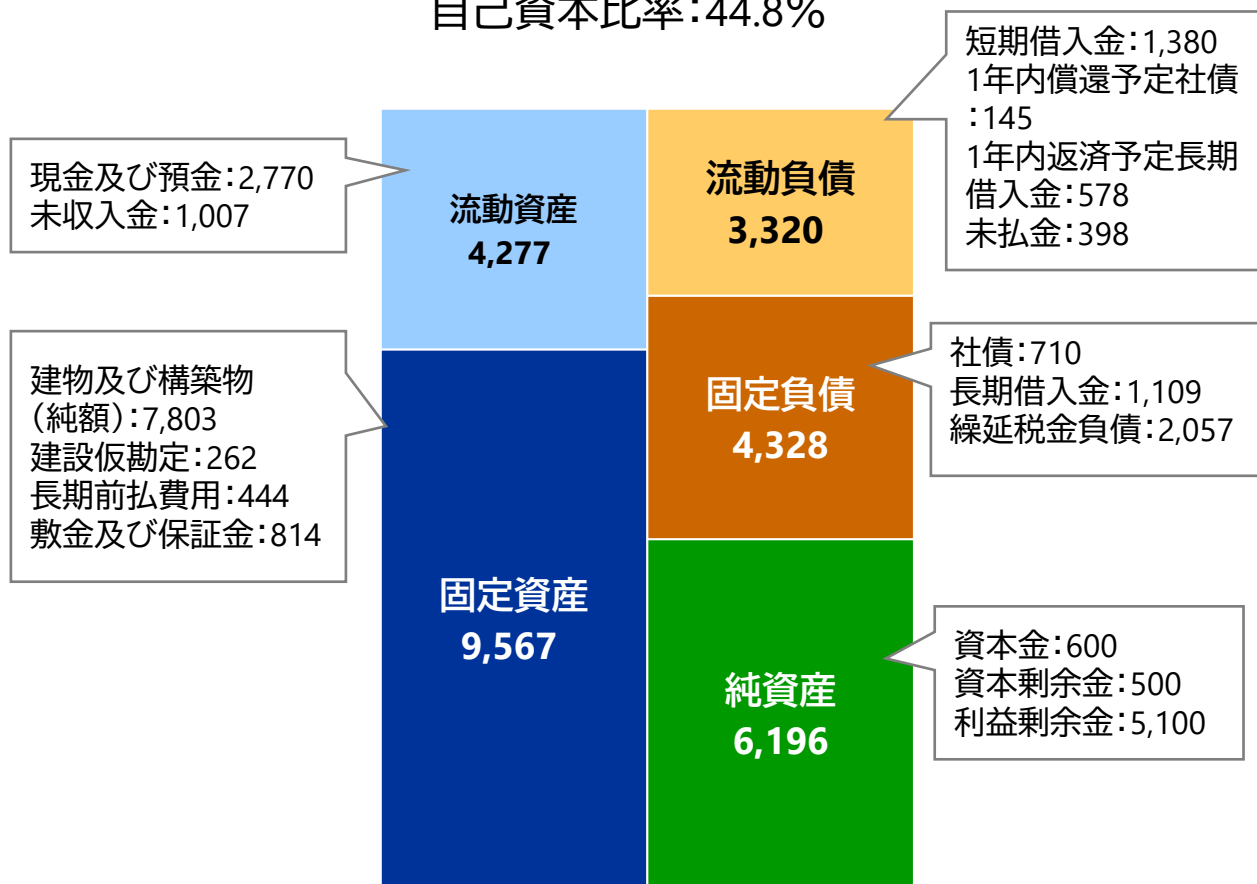


資産合計

負債・純資産合計

2023年3月期末

総資産13,845百万円
自己資本比率:44.8%



現金及び預金:2,770
未収入金:1,007

建物及び構築物
(純額):7,803
建設仮勘定:262
長期前払費用:444
敷金及び保証金:814

短期借入金:1,380
1年内償還予定社債
:145
1年内返済予定長期
借入金:578
未払金:398

社債:710
長期借入金:1,109
繰延税金負債:2,057

資本金:600
資本剰余金:500
利益剰余金:5,100

資産合計

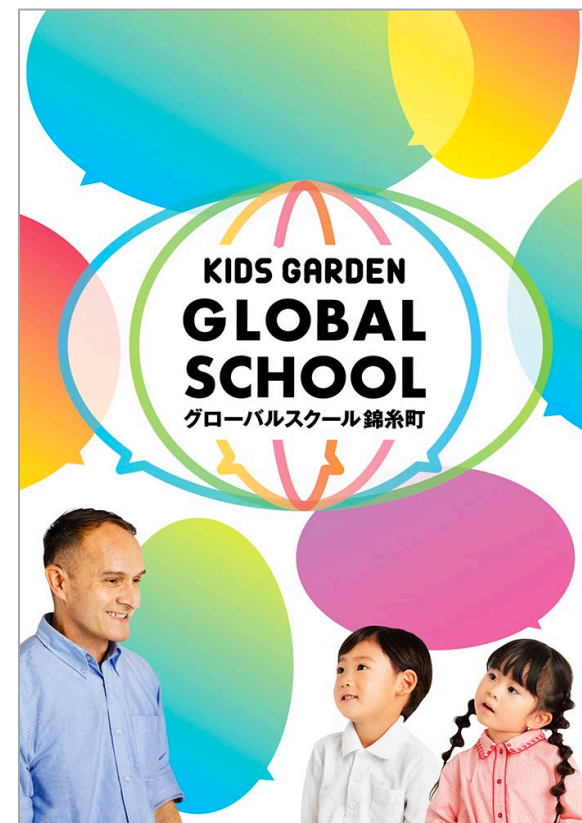
負債・純資産合計

キッズガーデン グローバルスクール錦糸町

プレミアム教育サービス事業における**新サービスライン**として、**英語と日本語のバイリンガル教育**を実施する「キッズガーデン グローバルスクール錦糸町」を2023年4月に開設しました。

全国展開を見据えたリーズナブルな価格設定を実現したグローバルスクールモデルを開発したことにより、プレミアム教育サービス事業のターゲット市場は、**約40倍以上に拡大**※する事を想定しております。

※厚生労働省「国民生活基礎調査」及び国税庁「給与階級分布」より当社試算



- ・英語と日本語のバイリンガル教育
- ・多言語対応(日本語・英語・中国語)
- ・プレミアムラインの約半額の価格設定

今後の事業戦略について

プレミアム教育サービス事業を軸とした成長方針に変更無し

現在、市場分析と開設計画の策定を進めており、2023年6月30日(金)に中期経営計画及び業績目標を開示予定

策定中の事業計画の基本方針

1. 基本戦略

- ・認可保育所事業

保護者・園児が『選びたくなる園づくり』の推進

今後は新規開設は行わず、充足率の向上を図ることで、安定的な運営・収益確保を行う

- ・プレミアム教育サービス事業

グローバルスクールモデルを軸とした新規開設投資の加速

グローバルスクールに続く新規事業の創出に向けた企画開発、人員体制の構築・採用強化のための投資を加速

2. 数値計画について

- ・開設予定数の更新

- ・計画数値(売上高、営業利益、経常利益等)の更新

当社グループが狙うターゲット市場の規模

グローバルスクールモデル(2023年4月開設)を開発した事により、当社のターゲット市場は約40倍以上に拡大
少子化進行の状況においても十分に成長可能

モデル施設(キッズガーデン グローバルスクール錦糸町と同規模)



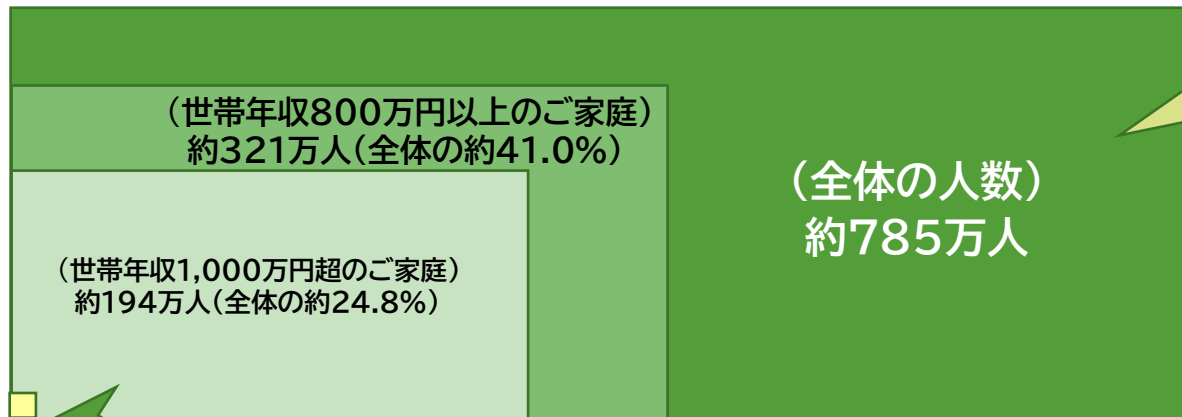
預かり人数:1日最大70名
100%稼働に必要な在籍児童数:約100名
(週2・週3・週5でプラン選択が可能のため)



(100施設の開設を想定した場合)
90~100%稼働に必要な在籍児童数
約9,000名 ~ 約10,000名

ターゲット市場:世帯年収1,000万円超のご家庭
⇒今後の全国展開でターゲット市場は、世帯年収800万円以上
のご家庭まで拡大する事を想定

0歳~9歳人口(2030年時点)における市場規模



【0歳~9歳人口】
約915万人(2022年)
⇒ 約785万人(2030年)
約130万人減少すると想定

100施設の90%~100%稼働に必要な在籍児童数:約9,000名~約10,000名
(ターゲット市場全体の0.3%~0.5%前後)

※本ページ内の数値は、以下の資料を参照して当社独自に算出した試算値
・厚生労働省「人口動態調査」、「国民生活基礎調査」
・総務省「人口推計」
・国税庁「給与階級分布」
・国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計」

▶ 【顧客層】

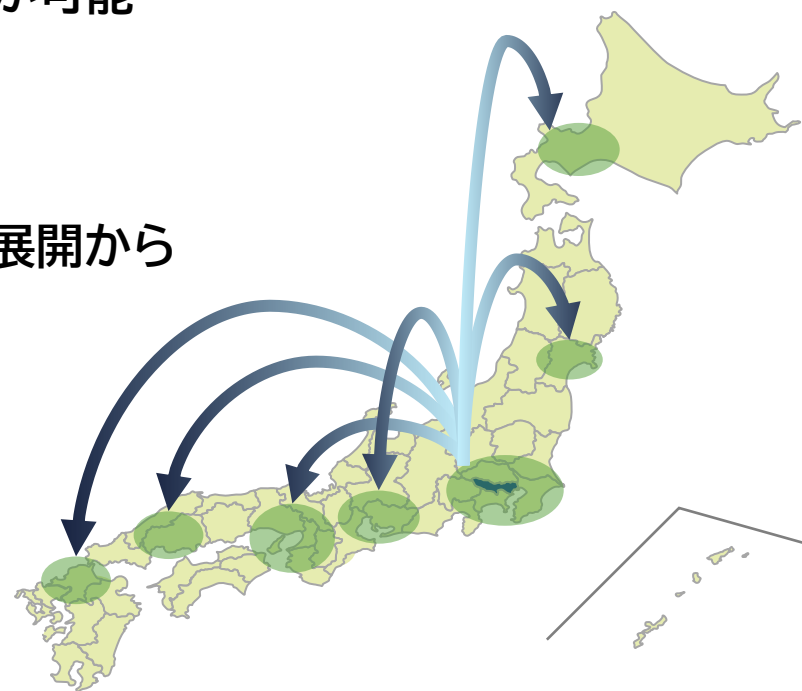
現在のプレミアムラインよりリーズナブルな料金で通うことが出来る新サービスラインの開発により、想定世帯年収によるターゲット市場は約40倍以上に拡大※

▶ 【展開エリア】

新サービスラインの料金体系は、全国での展開が可能



- 平均所得の高い都内の一部中心エリアによる展開から全国へ展開エリアが拡大
- スピード感をもった複数エリア展開が可能



※厚生労働省「国民生活基礎調査」及び国税庁「給与階級分布」より当社試算

グローバルスクールモデルの想定事業収支

認可保育所と比較して、高い収益率を誇るモデル



1施設あたりの想定収支※1

<モデル施設>

預かり人数:(1日最大)70名

(単位:百万円)

開園年数	1年目	2年目	3年目	スケール化 における 想定モデル
売上高	60	90	110	100
営業利益	▲30	13.5	30.8	25
営業利益率	—	15%	28%	25%
期末在籍 児童数※2	50名	80名	100名	90名
充足率	50%	80%	100%	90%

※1: 本社経費等配賦前の園単体のPL

※2: プラン(週2・週3・週5)を選択可能なため、1日の預かり人数より多い契約者が必要

2024年3月期 業績予想

2024年3月期は、業態の転換期に入るため、既存施設の利益が顕在化して、営業黒字化を予想
 プレミアム教育サービス事業を軸にした成長を加速させるための体制構築を目指す
 中期業績予想については、2023年6月30日(金)に開示予定

(単位:百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 業績予想	増減要因
売上高	11,860	12,220	・新規2施設開設 ・既存事業の在籍児童数の増加
営業利益	▲31	70	・既存事業の在籍児童数の増加による利益の顕在化
経常利益	378	122	・認可保育所の開設数の減少に伴う開設補助金の減少※
親会社株主に帰属 する当期純利益	188	80	・上記同様

※認可保育所開設数
 2023年3月期:3園
 2024年3月期:1園

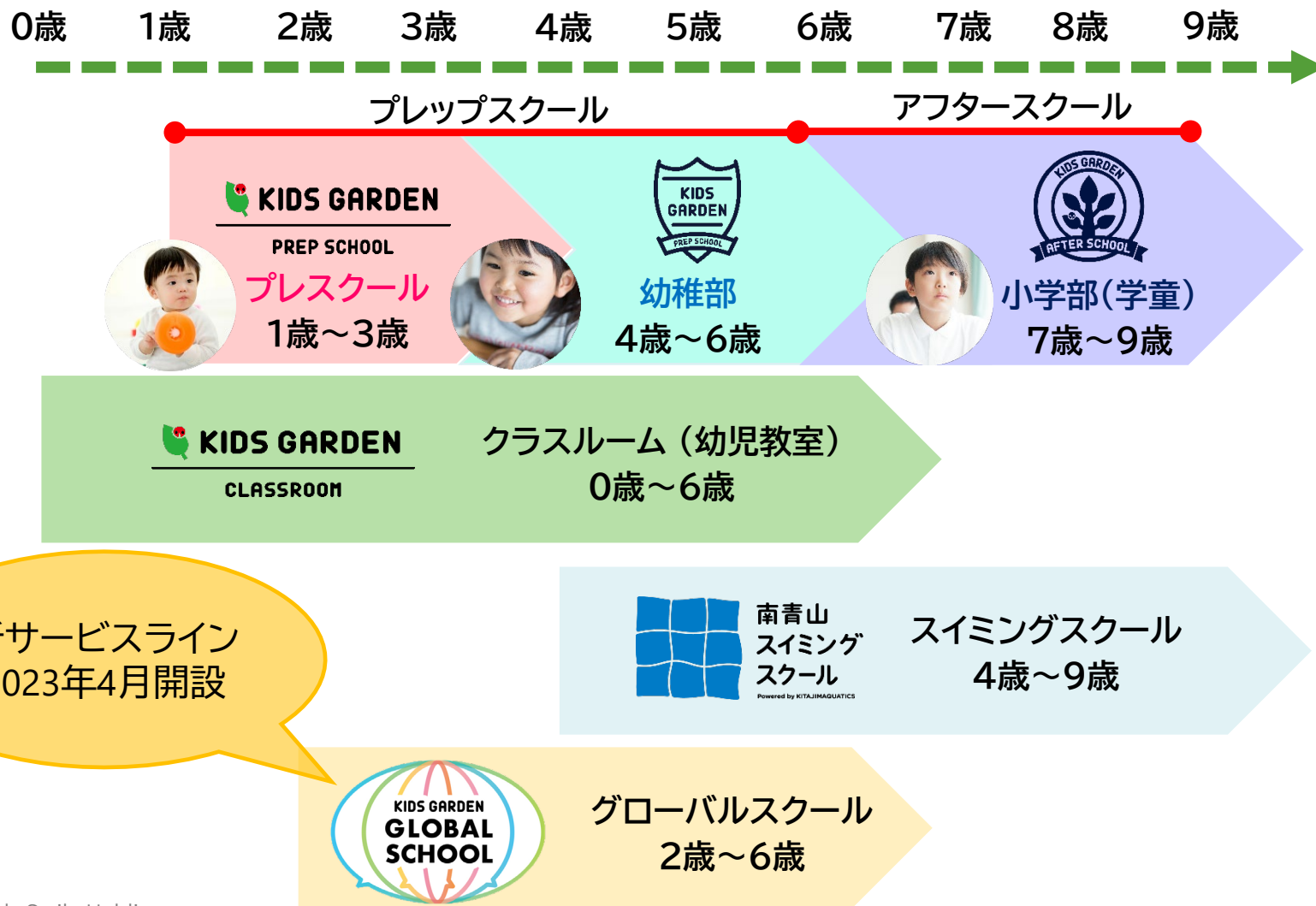
当社は、財務基盤の強化と事業の持続的な拡大・成長を目指していくために、内部留保の充実が重要と考え現在、配当を実施していません。しかしながら、株主への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識しており、今後の経営成績及び財政状態、配当性向に加え、事業・投資計画、事業環境等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりつつ配当について検討していく方針であります

参考資料

プレミアム教育サービス事業のラインナップ

KIDS SMILE HOLDINGS

東京中心部で展開していたプレミアムラインに加え、
全国展開を見据えた新サービスライン『グローバルスクール』を2023年4月に開設



プレップスクール(教育特化型保育施設) & 幼児教室

プレミアム教育サービス事業のメインコース
自由が丘・広尾・元麻布・代官山・恵比寿・南青山で展開
2021年10月キッズガーデン南青山 開設
キッズガーデン教育圏構想のフラッグシップとなる1歳～9歳
を対象とした都内最大級の大型教育施設

KIDS GARDEN
MINAMIAYAMA



アフタースクール(高付加価値学童)

2021年4月 学童領域へ進出
広尾・南青山の2施設で展開

宿題対応などの一般的な学童サービスに加えて、多様な教育
サービスを提供する高付加価値学童施設

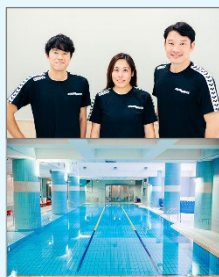
KIDS GARDEN
AFTER SCHOOL・HIROO



スイミングスクール

2022年4月 スイミングスクール領域へ進出
南青山スイミングスクール 開設

金メダリストである北島康介氏の(株)IMPRINTと提携
ハイエンド向けの高収益型スイミングスクール



グローバルスクール

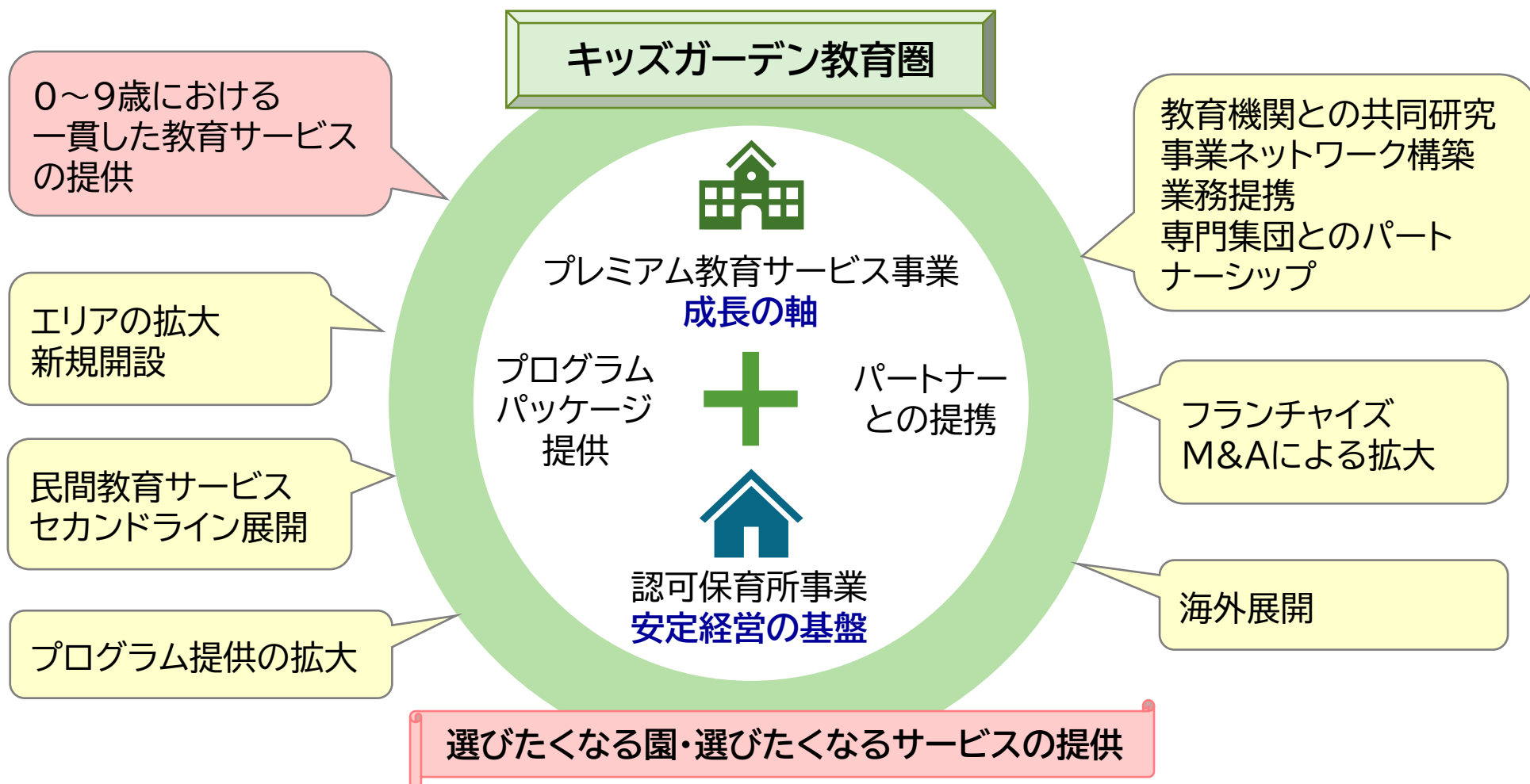
2023年4月 新サービスライン〈グローバルスクール〉
キッズガーデングローバルスクール錦糸町 開設

英語と日本語のバイリンガル教育を目的とした施設
全国展開を見据えたリーズナブルな価格設定



キッズガーデン教育圏

当社グループの成長戦略の核として、子どもの成長に重要な0～9歳における全ての教育サービスを提供する「キッズガーデン教育圏」の確立・拡大を目指します。



OECD(経済協力開発機構)がその重要性を提起し、世界で注目される非認知能力の育成を重視した教育プログラムを行っています。

当社グループが育む幼児期の「非認知能力」

共感

- 相手の気持ちを正しく理解し、自分の気持ちを伝える事ができるコミュニケーション力の基礎をつくる。

体験

- 好奇心、探究心を持って積極的に物事に取り組むことで、達成感を育む。その達成感を更なる好奇心・探求心へと繋げる。

課題解決力

- 正解が一つではない問いに対して、自ら考え、自分の答えを導き出す。

世界で注目される非認知能力

ノーベル経済学賞を受賞したハックマン教授は、『幼児教育の経済学』において「乳幼児期に非認知能力を伸ばす教育を」と提言しています。また、OECD(経済協力開発機構)のレポート「OECD Skills Studies(2015年)」において、非認知能力にあたる社会情緒的スキル※を「フォーマル・インフォーマルな学習経験によって発達し、一生を通じて社会経済的成果に重要な影響を及ぼす個人の能力」と定義し、幼い時期の教育が人生に及ぼす影響と非認知能力の重要性を提言しています。

日本での非認知能力への注目

世界で非認知能力への注目が高まる中、文部科学省も学習指導要領において、育成すべき資質・能力に「学びに向かう力」や「人間性等」の非認知能力にあたる力を掲げるなど、非認知能力の育成が重要視されるようになりました。

※社会情緒的スキル:レポート内においては、①「目標の達成」、②「他者との協働」、③「感情のコントロール」の3つの領域に分類

子どもの非認知能力を育むことを目的として、独自開発のプログラムと世界で評価されたプログラムを提供しています。

KID'S PREP. PROGRAM



キッズプレッププログラムは、当社グループと幼児教育大手の「伸芽会」が共同開発したオリジナルの教育プログラムです。

見る力、聞く力、話す力、考える力、行う力の5つの力をバランス良く伸ばし、「自立」「自主性」「想像力」の心を育み、集団生活をきちんと営むことができる子どもたちを育てます。

モンテッソーリ教育

子どもの自主性や集中力を育てるとともに、自信と品格を育みます。各界のリーダーを数多く育てた世界で注目されている教育法です。

モンテッソーリでは集団で同じことをするのではなく、何をするか自分で選択し、自発性を重んじ、自由に発想する環境を提供します。国際資格を持つスタッフが子どもの知的好奇心を育む手助けをします。

幼稚園・小学校受験クラス

幼稚園受験、小学校受験に向けて、基礎を身に付けます。幼稚園受験、小学校受験では非認知能力が重視されます。そのため、幼児期に必要な非認知能力を高める取り組みを行っています。

免責事項

本資料の取り扱いについて

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご承知おきください。